

スピリチュアル物語

217話 by 魔女ともえ

この『スピリチュアル物語』は、BRIDGE USAさんよりお引越しました

魔女ともえ

ミステリースクールよりイニシエーションを受けた全米初の日本人魔女。チャネリング、白魔術、過去世リーディング、オーラ診断、浄化などを通じて、人々の幸せをサポート。ヘリと小型機のパイロット免許を持つユニーク魔女。

- Skypeセッション 1時間\$80 / 90分\$115
- メール相談 簡易コース\$15 / 通常コース\$40



「てことは自然崇拝とアニミズムは厳密に言えば違いがあるということですか？」マジョリアルの質問にマグワートは軽く頷きながらこう答えた。「一つの説で言えば：元々は自然崇拝という概念があり、それは自然そのものや自然現象に対しての畏敬の念であり、自然が持つ偉大なる力、人間がコントロール出来ない自然現象に対して抱いていた崇拝と言え、アニミズムはその偉大なる力はそこに宿る精霊によるものと解釈するスタンスを言うみたいじゃ」それを受けて「その畏敬の念はどうして発生したんだい？」とウィザットが質

問。「例えば、世界各地に残る巨石崇拝や山岳信仰に代表される様に、人は大きな自然物に対して畏れの気持ちを生得的に持つ傾向にある。更には、今でこそ月の満ち欠けや雷が発生する理由を明確に説明出来るが、古代の人達はそれらを目にして自然の偉大なるパワーを感じたに違いない。そのパワーを崇めるスタンスが自然崇拝じゃな。そしてそのパワーは自然に宿る精霊が司っていると考えたのがアニミズムなのではなからうか？。例えば、人類が火を手に入れた時、燃え上がる炎の揺らめきの中にサラマンダーを視たのかも知れ



ない：」「サラマンダー？」「火の精じゃ。キャンプファイヤーやファイヤープレイスにくべられた薪が燃える様子をじっと見ていると、まるで炎が生き物の様に見えてはこないか？また川の流れを見ている際も、そこに水の精ウンディーネを視ることもある：。その他に風(空気)の精はシルフ、土の精はノームと言うんじゃが、この四つを四大精霊と呼ぶんじゃ」

★これまでのお話(1~216話)は魔女ともえのwebで読むことができます。

www.majotomoe.com 7月26日号につづく